

## 東岡宿の北門跡と石組



富田北東部は、戦国から江戸時代にかけて「東岡宿」という町場で、周囲は土塁と堀・筒井池が廻り、北・南・西の主要な出入口に門が構えられました。

江戸時代の「富田東岡宿絵図」には、ここに北門が描かれ、門の

両側は土塁らしき竹藪となっています。それらは現存していませんが、北門の東西約350mにわたって土塁が築かれていたようです。東側の水路沿いに並ぶ石組から、かつての様子がしのべれます。



「富田東岡宿絵図」(部分)江戸時代 個人蔵

平成26年3月 高槻市教育委員会

### 東岡宿の北門跡と石組

富田北東部は、戦国から江戸時代にかけて「東岡宿(ひがしおかしゅく)」という町場(まちば)で、周囲は土塁と堀・筒井池が廻り、北・南・西の主要な出入口に門を構えていました。

江戸時代の「富田東岡宿絵図」には、ここに北門が描かれ、門の両側は土塁らしき竹藪となっています。それらは現存していませんが、北門の東西約350mにわたって土塁が築かれていたようです。東側の水路沿いに並ぶ石組みから、かつての様子がしのべれます。

平成26年3月 高槻市教育委員会



東岡宿を囲む  
石垣の残像

- ※ 東岡宿(宿久)の北は、石垣・土垣、土塁と竹林により防御されていたことが清水家の絵図で示されている。現在石垣の一部が残っています。深いところでは2mほどの堀となり、土塁は幅2m、高さ2~3mはあったと思われる。この土塁は清蓮寺北まで続いていた。
- ※ 江戸時代までは、北側は竹藪だった様です。
- ※ やがて江戸時代になって平和が訪れ北に町が伸びていった。
- ※ 昭和に入り土塁は壊され、筒井池の真ん中に中之橋が出来る際、盛土として使われた。